平成28年度 第1回石狩市社会教育委員会の会議 議事録

日時 平成28年6月8日（水曜日）午後2時00分～3時55分
会場 石狩市公民館第一研修室
出席者 石井量子、石井滋朗、大橋修作、榎本恵、相馬保、大黒利勝、木村純、船木幸弘
平紀子、高橋美恵子、松本史子
事務局 鎌田教育長、佐々木部長、東次長、須藤主査、斉藤主査（社会教育主事）
栗谷主査（社会教育主事）、谷川主任、佐藤主任、重田主任
亀浦生涯学習推進アドバイザー
傍聴 なし

斉藤主査

皆さんこんにちは。社会教育課の斉藤です。では早速始めたいと思います。

只今から平成28年度第1回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。まず、委嘱状交付について説明させていただきます。本来であれば教育長から委嘱状を交付するところですが、会議の時間の関係もあり委嘱状をそれぞれのお席に置かせていただいております。ご了承をいただきますようお願い申し上げます。それでは早速会議次第に入らせていただきます。

最初に、石狩市教育委員会教育長 鎌田英暢よりごあいさつ申し上げます。

鎌田教育長

みなさん、こんにちは。あいにくの寒さの中、また、それぞれ大変お忙しい中ご出席いただきまして心より感謝申し上げます。また、本市の教育行政の推進にあたりまして、それぞれいろいろな立場の方にご尽力をいただいていることに対しても、あらためてお礼申し上げたいと思います。

只今、司会の方からありましたように、委嘱につきましては机上での委嘱という形になりましたけれども、本日全ての方が出席しているわけではないんですが、5名の新しい委員の方を含めて15名で、今日新たな社会教育委員のスタートという形になりました。ぜひ、向こう2年間いろいろな形のところで、貴重なご意見など、ご協力いただければ幸いかなと思っているところがございます。

さて、皆様も当然ご承知だとは思いますが、今年は、4年に一度のオリンピックの年となっております。まだあのちょっと、夏の開催ですから、まだ、盛り上がっていないのかなという風に思いますが、今年は、ブラジルで行われます。これから、色んな日本人の日本の選手の活躍が大いに期待されると思いますが。ちょうど今の時期ですね、小中学校の体育祭それから運動会の開催時期となります。もうすでに中学校5校、小学校8校が終わりました。それで、子どもたちの頑張る姿を見ると、いわゆる昨今言われている子どもの体力不足という部分が本当に当てはまるのか、少し疑問に思うところもあるんですが、子どもたちが一生懸命運動も含め

て学校で頑張っているところです。これからグローバルな社会に出て行く子どもたちに対しましてもいろいろな活躍をしてくれるんじゃないかなと期待しているところでございます。

そういった現在の人や情報あるいは、価値観が多種多様で時として複雑に絡み合っていて、どこを見つめ、何を求めていけばいいのかわかりづらく、一人ひとりがビジョンを描きにくい世相ではないかと思っているわけでありまして、そんな時こそ、それぞれが自らのアンテナを磨き上げて、自分の柱、いわゆる自己の幹を強固なものにしていく必要があると言われていたところでございます。私ども市教委といたしましても、市民の生涯学習や社会教育を支えていくためには、同じことを敏感に感じとりながら、注意深く見定めていかなければならないと考えておりますが、それぞれ、さまざまな分野でのご活躍をされている皆さんの、この社会教育委員の会議のこの場は、まさに、まさしく、私たちのアンテナに最もタイムリーで、そして意義深い情報やご意見をもたらしてくださる非常に頼もしい存在であるのかなと考えております。

また、ご承知のように多くの皆さんからご意見をいただいて策定しました、後期教育プランにつきましても昨年度から既に動き出しています。この教育プランにつきましても、一人ひとりの学びと活動が地域や組織、生活の様々な場面を通して社会全体に生かされるように、地域で育ち、学び、生きる教育を推進することを謳っているところでございます。推進にあたりましては、社会教育委員と学ぶ市民講座の開催などの画期的な取り組みを通して、本市の実状を把握し課題をしっかりと整理し、それを踏まえながら多角的な検討やご提言をお願いすることになるわけですが、今後更なる地域課題の掘り下げの取り組みなど、委員の皆様のご見識と「行動する社会教育委員」としての実践の成果に心からご期待申し上げます。本日は、改選後初めての会議となります。今後は具体的な検討内容、さらにはスケジュールなどの確認を含めまして、関連なご議論をいただき、引き続き本市社会教育行政の推進にご尽力を賜れば幸いかなと考えております。

以上簡単ではありますが、お礼と併せてお願いを含めた、私のごあいさつとさせていただきます。先ほども申し上げましたが、向こう2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

斉藤主査：続きまして、この会議が初めてとなる方がいらっしゃいますので、各委員の自己紹介をお願いいたします。

石井（量）委員：文化協会から参りました、石井と申します。よろしくお願いいたします

石井（滋）委員：いしかり市民カレッジに所属しております、石井と申します。よろしくお願いいたします。

船木委員：今年から委嘱を賜りました、藤女子大学人間生活学部の船木幸弘と申します。学識経験者ということで木村先生の紹介で参画させていただくことになりました。石狩市では名の通った先生方、名の通った方々が色んな委員や、市民参加の自治を進めているということで、私も存じあげていましたので、同じ席にいることをとても光栄に思っておる次第です。よろしくお願いいたします。

平委員：平紀子と申します。札幌市立大学図書館で専門図書館員として勤務しております。木村先生の下でご指導を賜り、3期目をむかえての社会教育委員。微力ではありますが、何か役立てることができたら良いと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

松本委員：一般公募で今年から委員を勤めさせていただきます松本史子と申します。よろしくお願いいたします。

相馬委員：こんにちは。浜益区から来ています。相馬でございます。何期かやっているんですけど、私は能力がないものですから、地域の中でもいろんなことができなくて、今でもなんとかならないか思っていますけども、できる限り、がんばって地域の方々とともに社会教育委員の役割を果たしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

高橋委員：一般公募、高橋美恵子です。よろしくお願いいたします。

大黒委員：大黒利勝と申します。中央美術協会会員となっておりますが、間違いありません。厚田のアクアレーンという水彩画展を行っていきまして、この前第3回展をやりました。実行委員長をやっておりますが、そのほか社会教育の関係の仕事もずーっとやっておりますので、何か参考になることがありましたら、引き続き頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

榎本委員：PTA連合会から来ております榎本恵です。私は八幡小学校のPTA副会長をやらせていただいているんですけども、子どもが4人いて、3番目の子が6年生で、このあいだ運動会が終わって、下の子が年長さんなのでまた、小学校に入ると言う感じで子育てしております。よろしくお願いいたします。

大橋委員：石狩ユネスコ協会の大橋です。特に教育委員会の方々にはご協力いただいております、石狩ユネスコでの各学校での子どもたちを通して、書き損じはがきを集めていただいたり、特に小学生が中心なんですけども、市内の「私の町の宝物」絵画展と言うことで昨年度は960点あまりの絵を集めていただきました。大変ご協力いただいております。社会教育委員の方でも、ユネスコとしてもぜひ、いろんな意味で協力できるところとしていきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

木村委員：木村純です。3期目になります。私は、職場が石狩にあるわけでも、石狩に住んでいるわけでもなく、札幌市民なんですけど、私の指導する社会人大学院生がここでの高齢者の学習だとか、子育て支援について修士論文を書きまして、大変お世話になったということと、前任の徳田先生が私の北大の時の上司で、徳田先生に「手伝って」といわれるとなかなか断りきれないこともありまして、社会教育委員をお引き受けしております。私自身はとても楽しくやっております。よろしくお願いいたします。

齊藤主査：ありがとうございました。続きまして教育委員会で社会教育の分野を担当する職員の

自己紹介を行いたいと思います。

佐々木部長：生涯学習部長の佐々木と申します。4月から今のポジションに参りました。色々と、皆様方のご意見を聞きながら、まだまだ勉強・修行の途上ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

東次長：6年目になります。社会教育担当次長となりました。去年から図書館もやらせていただいております。今年も1年どうぞよろしくお願いいたします。東と申します。

須藤主査：社会教育課の須藤と申します。よろしくお願いいたします。

斉藤主査：社会教育課社会教育担当の斉藤晶と申します。よろしくお願いいたします。

栗谷主査：公民館兼社会教育課と言うことで4月から厚田支所から参りました栗谷と申します。お世話になります。よろしくお願いいたします。

亀浦アドバイザー：皆さんこんにちは。社会教育課で生涯学習推進アドバイザーとして仕事をしております。亀浦と申します。よろしくお願いいたします。

佐藤主任：4月から社会教育課に配属されました佐藤あきと申します。よろしくお願い致します。

谷川主任：こんにちは。谷川と申します。6年前にもこの建物におりまして、また戻ってまいりました。よろしくお願いいたします。

斉藤主査：次に会議次第の3番、委員長及び副委員長の選出に移ります。委員長・副委員長の選出に関してご意見をお持ちの方はおられますか。

特にご意見がないようでしたら、事務局で案を用意しておりますので、提案させていただいてよろしいでしょうか。

(承認)

では、委員長を木村様、副委員長を大橋様をお願いいたします。

それでは、会議次第にありますように、委員長からごあいさつをお願いいたします。木村委員長よろしくお願いいたします。

木村委員長：委員長を仰せつかりました木村です。大橋委員の協力を得ながら進めたいと思います。皆さんよろしくお願いいたします。

石狩のことは図書館を初め、社会教育だとかまちづくりだとか、とても一生懸命に取り組んでおられて、それなりにリスペクトの気持ちを持っていたんですけども、皆さんと一緒に社会教育委員として地域のことを勉強するにつれて、いろんな可能性だとか、石狩のことをもっと全国だ

とか北海道の人たちにたくさん知ってもらいたいな、という思いが強くなってきております。そういうことを皆さんと一緒にやって行きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

斉藤主査：ありがとうございました。なお、鎌田教育長と佐々木部長につきましては公務のため、ここで退席させていただきます。ご了承願います。

ここで議事に入る前に、新たに社会教育委員になられた方もいらっしゃいますので、社会教育委員の職務について、またこれまでの取り組みなどについて説明させていただきます。

(以降説明)

これ以降の議事進行につきましては、木村委員長をお願いいたします。

木村委員長：今までのご説明に関して、質問・ご意見・わからないことはございますか？最初から全部わかっている人は誰もいないので、社会教育委員の会議を重ねることでだんだんと理解していくと思いますので、よろしく願いします。

それでは会議次第に従いまして会を進めて行きたいと思っておりますけれども、まず報告の1、会議出席報告として平成28年度石狩管内社会教育委員連絡協議会総会、恵庭市で開催されたものですが、私からご報告させていただきます。皆様の元に資料があると思っておりますが、基本的には石狩管内の社会教育委員の委員長でいろいろな役割を持ち回りで決めているので、委員の選出とそこで選ばれた人がその役割を果たすということと、特に連絡協議会の方針で一番大事なことは、平成29年にこの石狩管内の教育委員会と、石狩管内の社会教育委員とを中心にして、全国大会を札幌で開催すると言うことがありまして、2,000人くらい集める会を私たちもかかわって開催する準備について話し合うということです。

それで、持ち回りで石狩市が前年度まで会計の幹事をやっております、幹事として会計の監査を行いました。銀行の通帳だとか領収書を見て公私混同も、領収書の但し書きもちゃんとしております、全く問題ありませんでした。役員については、持ち回りでこれまでは監事でしたが、今年からこの連絡協議会の副委員長を石狩市がやることになっておりまして、私が副会長になりました。会長は新篠津村の佐藤千佳さんです。持ち回りですと、平成30年に石狩市の社会教育委員長になった方は、石狩管内の社会教育委員連絡協議会の会長になるということになっております。

そこに、記載のとおり、一番大事なことは、6ページの下のところ、第59回全国社会教育研究大会、平成29年度北海道大会の準備に対する支援に努めると、それに向かってわれわれとしても役割を果たさなければいけないということが書いてあります。以上です。

それでは、次の議事に入ってもよろしいですか。今までのところでご質問はありますか。

何も聞かされないで社会教育委員になって、来年全国大会があるといつて、すごい忙しくなるのではと、恐怖を感じている方もおられると思いますが、たぶん、もちろん色んな役割が回ってくると思いますが、そんなに忙しいことは無いと思います。よろしく願いいたします。私と社会教育行政の方が頑張るといふことになると思います。後は社会教育委員の普段の活動について、できれば報告するような機会を皆さんと話し合いながら、持てたらいいなと思います。

それでは、平成28年度石狩市芸術文化振興奨励補助金について事務局から報告をお願いしま

す。

須藤主査：それでは、平成28年度石狩市芸術文化振興奨励補助金についてご説明申し上げます。4月22日の募集締切までに1件の応募がありました。

(以降説明)

以上で説明を終わります。よろしくご審議をお願いいたします。

木村委員長：ありがとうございました。只今説明していただいた件について、ご意見・質問があればよろしくをお願いいたします。

木村委員長：委託料は誰が、誰に委託をしたという意味になるのでしょうか。

須藤主査：事業者アートウォームがジャズライブを行ってくれるバンドに委託するというになります。

木村委員長：アートウォームが委託した団体名は。

須藤主査：石狩市情操教育プログラムで「The Music」で演奏してくださったサックス奏者の奥野義典さんと、一緒に演奏する方たちに委託をするということです。

木村委員長：組織があるのではなく演奏者の方々でつくるグループに委託をするということですか。

須藤主査：そうです。

木村委員長：では他はありませんか。

船木委員：アートウォームの事業ですが、今年補助することを含めると何年続けるのか。これまで補助金の実績はあるのでしょうか。

須藤主査：この事業に関しては今回初めてです。

東次長：補足をいたしますと、教育委員会の既存事業とこの事業との区別がわかりにくいと思われませんが、教育委員会では毎年1校ずつ中学1年生を対象に「The Music」という事業を行っています。奥野さんはサックス奏者の方で、赤レンガ倉庫を改造したアートウォームという会場でジャズ演奏を聴いていただき、実際に子どもたちも打楽器と一緒に演奏してもらったり、非常に雰囲気の良い事業です。これは平成21年から続けており8年目になる。非常に効果があるということと、子どもたちも先生方も喜んでおり継続しています。さらに、親子で体験できないかと今年アートウォームで検討して、初めての取り組みとしてやってみようというのが「中学生のた

めの親子ジャズライブ」という形になったという経緯があります。

船木委員：よくわかりました。

木村委員長：他にいかがですか。

石井（量）委員：中学生と保護者が対象となっていますが、一般の人は見れないんですか。参加することはできないんですか。

木村委員長：入場料は取るんですか。

東次長：入場料はいただくことになっています。大人からは前売りで1,000円。当日1,500円。子どもは無料。基本的な趣旨は親子で参加をいただくことを考えている。一般の方よりは、親子で聴いていただく。もし、80人が満たない場合は、多少前後はあるかもしれない。

木村委員長：計画概要の様式に、入場料などの収入がある場合、その記載があるほうが丁寧だと思います。次回からそのようにお願いしたい。

須藤主査：はい。

船木委員：補足説明させていただければ、「The Music」は教育委員会が毎年1回やっていて、今年は6月1日に開催された。今回の申請はそのプラスワンという次長の説明だった。実はその当日会場準備直後に会場のアートウォームにお邪魔していて、そのとき趣旨や場所の説明を逐一聞いて、とても感動的な説明でした。ボランティア活動としてNPOを運営していて、市民が作っているということなので、公的に32万くらいしか出ないのかとも思っているのですが、石狩市を象徴する市民が何かをするのは好感を持てると思っています。

東次長・須藤主査ありがとうございます

木村委員長：他に特になければ、この件について、補助金の対象とするということでもよろしいでしょうか。

各委員：了解です。

木村委員長：それでは異議なしということで、ありがとうございます。

次に議題の（2）平成28年度社会教育委員の取り組みについて、に移りたいと思います。初めに事務局から平成27年度と平成28年度の取り組みについて説明いただきます。

東次長：ご説明いたします。資料につきましては、提言書及び教育大綱、これは本日お渡しした

ものです。執行方針、石狩市のものと教育委員会のもの、それと広報の写しです。お手元にございますか。

まず提言書の内容についてかいつまんで説明いたします。

(以降説明)

提言書については、後ほどお目通しいただければと存じます。

木村委員長：はい。どうもありがとうございました。今まででわからないことはありますか。始めての方は大変かと存じますが。ご意見はありますか。それでは続けてください。

東次長：それでは続けまして、今年度の動きについてご説明いたします。資料は教育大綱、姿勢執行方針、教育行政執行方針、市広報6月号の写しをご覧ください。

(以降説明)

以上、過去の部分、今こういうふう動いているということにつきまして、ご説明いたしました。

木村委員長：はい。すごく盛りだくさんで議論するのが難しいかもしれませんが、意見・質問がありましたら出してください。

なかなか、1年に3回の会議の中で、社会教育が担当する様々問題についてしっかり知って、議論するというのは難しいということではあります。そんなことがあって市民と学ぶ講座というものを立ち上げた経緯はありますが。どうでしょうか。ご意見ありますでしょうか。

いつの間にか、子育てをめぐって様々な協働の施策が増えて、担い手に関わるような社会教育の課題がだんだんと重要になってきているのが示されていると思います。その意味では石狩には色々な市民活動があって、市民の皆さんが一生懸命かかわってきてくださっている。そういうことが示されているわけですけども。いかがでしょうか。

船木委員：社会教育とは社会教育法では学校教育課程として行われる教育活動を除き、組織的な教育活動をおこなうのが社会教育と説明頂いただきました。それが、学校支援の地域コーディネータの3名の方が学校で活動をするということなんですね。場所が学校故に、学校教育活動ではないのか。学校教育と社会教育の住み分けについて補足説明をいただくとコーディネーターが活躍している意味を理解できるのではないかと思うのです。学校教育と社会教育との住み分けを明確にしてほしい。また、先生とコーディネーターの関係性についてもイメージできるかなと思うので補足お願いしたい。

斉藤主査：学校支援地域本部は学校が活動場所なので、学校教育ではないか、という趣旨でしょうか。

船木委員：校長の支配下であれば、学校の教育課程ではないのか、一般的にはそのように捉えられるのではないか。また校舎の中で活動するとなると、校長の采配の中で許される活動なので、極端に言うと、制限が加えられるのではないか。ボランティア活動であるが故に、どこまで

市民が主体的に学校で効果的な活動ができるのかイメージがつかない。

斉藤主査：学校支援でお手伝いされている方は、今までの経験や知識を使って、学校の先生が子どもと向き合う時間を作るために、授業の直接的ではない、草刈等補助的な部分で関わっていただいているというのが、学校支援地域本部であります。直接的に授業に入っていないので、学校の校長の管理下ではあります。各学校の教育計画外であり、人それぞれの経験を生かして学校と関わりあっていくのが社会教育的な部分だと思っています。

高橋委員：私は社会教育委員3期目です。学校教育と社会教育の捉え方がよくわからなかったが、石狩市としては、かなり入り込んでいると思う。放課後の児童の面倒を見るのに学校の施設を使って、一般のボランティアもどンドン入って面倒をみている。そういう寺子屋活動をしていて、分けないで入り組んで取り組んでいる。社会教育も学校教育も線を引かないで、入り組みながら取り組んでいると捉えたほうが良いと思う。

木村委員長：先ほどの社会教育法の資料の3ページのところを参照すると、社会教育行政の役割であるということを決めているということと、2006年に教育基本法の改正され、それに基づいて、新しい社会教育法と学校教育法があって、社会教育の中で、学校支援を重視する方向になったので、学校の授業等は学校の責任になるが、学校について支援するのは社会教育行政の重要な役割となったと思います。

東次長：20年改正の時に、資料の3ページにありますように、大きな枠として社会教育の枠で学校全体、子どもたちを支援していく方向という条文になって行ったのかと思う。

木村委員長：船木委員が言っている、学校が自ら開いて、地域と協力してやっていくというのは、うまく行っているわけでは必ずしもない。もちろん積極的に地域に開いて応援を積極的に求める学校もあれば、あんまり学校の中に立ち入ってもらって面倒くさいと考える学校もある。そのところは地域の人たちと学校との間で、どのようにお互いに協力し合えるのかについて話し合いを持つ余地はかなりあると思います。

東次長：石狩にはご承知のようにSAT（スクールアシスタントティーチャー）という事業が平成14年からスタートして、地域の学生や地域の方に授業に入っていただく取り組みをしています。今までは学校としては、入ってきてもらうのは難しい部分があった。しかし、少しずつ良さが、学校に様々な方が入ってきて頂けるのは学校にとってもプラスになるということが少しずつ浸透してきた経緯があると思います。そのような土壌があったなかで、学校支援、学習支援だけではなく環境整備だとか色々な形の支援ができるということがわかったので、さらに広がりが出てきたという部分はあると思います。そもそも、石狩ではある程度学校側が門戸を開いて頂いた、実践をされていた土壌の上に、3名のコーディネータがうまく学校の要望に基づいた支援ができていて、という状況と存じます。

木村委員長：学校の基盤もそうですが、コーディネータの方が豊かな自分の社会教育の経験を公民館なんかで高め、趣味も含めて、それがネットワークを作ってそれが役に立っている。社会教育の経験が学校を支援することにつながり、それが講座の中でも報告されて、私たちが学ぶところですよ。

大黒委員：厚田では、新しい学校ができると、もうすぐできると思うんですが、その時に謳い文句にコミュニティスクールって言ってますね。地域の人材を十分に生かして、あらゆる面でやっていく。その中には教員の人事も入っているが、それは問題だと思うが、社会教育が学校教育、生徒の中にすごく入りつつあるんです今。そのへんの認識をしっかり持たないと難しいと思います。大変いいことだとは思っています。

木村委員長：基本的には学校支援地域本部とか学校教育と社会教育を融合させたり連携させたりするという事業はどんどん増えていく、国の施策でははっきりとそういう方向に向かっていきます。そのために住民も参加しながら、コミュニティスクールだとか、地域の中で協働しながら作り上げていくのは、おそらく社会教育の課題であって、いろんな研修会とか講演会が予定されているのではないかと。そういうことを社会教育委員にしっかりと案内しながら、社会教育と学校がどの様にかかわるのがいいのか、これからも勉強していかなくてはいけない課題だと思います。

相馬委員：共に勉強していかなくてはいけないのですけども、今考えてみると、何年前は、各学校・家庭・地域がばらばらに活動してきた。これからは家庭、学校、地域が連携をとっていかないといけないと、よく言われました。そういう点を踏まえると、どんな形で家庭、学校、地域が連携を取れるかは私たちの役割だと思うのです。教育委員としてのさっきいわれた役割ですけども、社会教育委員の研修会などに出席すると、一般的に言われているのは社会教育委員と教育委員の役割がいろいろな点で問われていると思います。以前のような社会教育委員は社会教育だけ、教育委員は学校だけという時代ではない。

家庭、学校、地域それから、社会教育委員の役割、教育委員の役割をもっと連携をとりながら、これからの、地域の子どもたち、大人たちも含めてどういう形でやっていくのかを、これから肝に銘じて進めていかなくいけないと思っています。

木村委員長：石狩は既に懇談を始めていますし、社会教育委員の委員長だった徳田先生が教育委員長をやっていますし、それなりに社会教育の大切さを教育委員会の方たちも理解されていると思うので、その点はうまくいっているのかなと思います。船木委員の意見をきっかけに大事な課題について話し合えたと思います。他に意見等はありませんか。

大橋委員：石狩は、石狩・厚田・浜益と3つの市と村が合併しましたが、地域性も大きいかと思いますが、浜益の学校に勤めたときには地域の人たちが、その学校の出身者が多いということもあって、地域と学校が一体となって、学校から特に要請しなくても、たぶん厚田地区も同じだと思うが、学校を卒業した方が地域にいるので、運動会とか学芸会などの大きな行事を含めて、花

壇づくりも含めて、毎年学校が要請をしなくても、地域の人に参加してくれる、そんな形が取られていた。

それに比べて、花川地区の場合は、全道各地で育った方が集まったので、地域と学校との結びつきを強くしてくれたのがこの学校支援地域本部事業で、コーディネータが中心となって、結び付けてくれた。もちろん学校独自で花壇等で学校独自で地域の人に呼びかけて、保護者の方を中心に集まってる地域もある。より地域と学校を結びつける事業としては、大変成果を挙げている事業だと思う。

木村委員長：いい面悪い面の両面がないわけではない、社会教育が学校支援に収斂していて、大人の生涯学習、社会教育に使う予算がほとんど足りないという問題も一方である。全体的な流れは、連携の方向にある。他にはいかがでしょうか。

東次長：1点だけ。コミュニティスクールの関係で、これから我々が学ぶという形になるが、市では8月2日にりんくるを会場に、18時から講演を予定しております。正式なものは後ほど、お渡しいたしますが、文科省に在籍されていた出口先生を講師としてコミュニティスクールについてご講演いただける予定でおります。学校関係者も含めて、そういう形の学びをしていくのがこれから大切になっていくのだらうと思っています。くわしいことはまた連絡させていただきます。

木村委員長：出口さんといえば、文科省で社会教育行政に担当してから、和歌山大学生涯学習センター長で活躍されて、文科省に戻って、今度は学校教育のコミュニティスクールを担当していたようです。社会教育もとても理解している、むしろ社会教育の方に足を置いているような方です。もし、機会があれば社会教育委員の皆さんもお話を聞くのもいいかと思います。

それでは次の議題に入っていいいでしょうか。

木村委員長：次は私の方からお諮りすることになります。社会教育委員の会の委員長をお引き受けして、社会教育委員の会議が年に3回しかないのもっと石狩のことをよく知って、石狩をどういう町に発展させていくのかというような学びが社会教育の中心になるべきなので、そのために、石狩のことを知る学び、石狩にどんな課題があって、解決するために市民はどんなことを学ばなければいけないのかということについて、社会教育委員が中心になって学んでいく。そのために、石狩市の市民と社会教育委員が学ぶ機会を始めたという経緯があります。

講座を始めた理由の1つは、会議を増やすと報酬が必要になってしまう。報酬を受け取るという大変さが逆に社会教育委員がなかなか発言できないと原因になるので、積極的に市民と一緒に学習したらいい。高齢化の問題・子育て支援・学校支援などについて、学習すると同時に、特に石狩の場合は高齢化と過疎化が進んでいる厚田とか浜益とか、人口2,000人程度の村と合併して、面積が広がって、新しい市民としてのアイデンティティとか、もう一度自分たちのふるさととしての石狩を捉えなおすことが大事であるとのことで、一昨年、去年と厚田、浜益を中心に勉強してきたということがあります。

去年は社会教育主事講習という文科省と道教育委員会が、北海道教育大学に委託をして、道内の特に学校の先生や自治体の担当者に社会教育主事の資格を取ってもらって、活躍してもらいた

いということをやっているが、北海道を代表する社会教育が元気で頑張っているまちということで、今まで恵庭市を会場に現地実習、つまり30人くらいの社会教育主事の資格を取るために勉強する人たちを、現地に連れて行って、現地の社会教育の現状と課題を学んでもらって、これからの社会教育のあり方を学ぶと共に、自分が実際に社会教育の現場に入った時に、いろいろと参考にしてもらいたい、ということをやっていたんです。

実は去年まで、石狩市の社会教育委員として北海道教育大学の、古村えり子教授が社会教育委員で北海道教育大学の社会教育主事講習実施の責任者でもあった。彼女は恵庭でできるなら、石狩だって誇りにできるような実践もたくさんあるので、ぜひ社会教育主事講習の実習を石狩でやりたい、という念願があった。

去年初めて、石狩で8月3・4・5日に30人に石狩に来ていただいて、施設の見学したり、厚田までバスで行って頂いて、厚田のまちおこしの話だとか、協力隊の話だとか、いろいろお話を聞いて、最後はシャトレゼで懇親会を開くところまでやった。残念ながら古村先生はその後、急逝されて最初の1年だけ関わることになったんですが、できれば今年も社会教育主事講習を石狩市がお引き受けしたい。私としては北海道を代表する社会教育が比較的元気なまちは、道央圏ではおそらく恵庭だとか長沼だとか石狩とかが代表する市町村だと思うので、今年石狩がもう一年引き受けて、来年は恵庭とか長沼などの他の市町村にやってもらって、また何年かかしたら石狩がやるということをしてほしいと思っている。

今年もできれば、石狩でお引き受けしようと思っている。個人的には、去年一昨年とずっと教育大学から委託を受けて手伝いをしているが、古村先生の穴を教育大だけでは埋められなくて、去年以上に私が頑張らなくてはいけなくなって、ちょっと心配ではあるが、先ほどお配りした資料の「社会教育主事講習現地実習の受け入れと『社会教育委員と学ぶ講座：厚田・浜益編』についての提案」となっていますが、今年も8月4・5・6日に社会教育主事講習の受け入れて頂けないかと。そのことについて社会教育委員の皆さんにも協力いただけないだろうかとの一つの提案になるのですが、その中で、いろんなことを考えて一番違うのは、去年は石狩のことを3日調べて話を聞いてもらったんですが、石狩の社会教育から何を学ぶのか、っていうことを参加者の皆さんが十分に振り返って、議論する時間が少なかったのが、今年3日目に議論の時間をたくさんとるという事と、もうひとつは、石狩市内の厚田・浜益を含めて、現場の人たちにそれぞれの施設だとかの取り組みについて報告をしてもらいたいと思っています。

それに加えて、船木先生にもお願いしたいのですが、藤女子大学が今、石狩市と関わって、様々な連携事業をしていて、私も何回かお話を聴く機会があって、とても良く頑張っているから、これは道内市町村でも地元の大学や近くにある大学とどう連携するのがすごく大事な課題なので、藤女子大が石狩市とどういう連携を今やっていて、そこで社会教育とさらに結びつけて発展させる上で、どんな課題があるのかということをお話してもらえたらな、と。そういうプログラムで8月4日に浜益と厚田に行き、5日石狩に戻ってきて旧石狩の本町地区とこちらとで議論して、3日目はグループワークをするという順番で、まず社会教育主事講習の手伝いをしたい。それについて社会教育委員の方も参加してもらいたい。

特に参加して頂きたいのは1日目の社会教育委員と学ぶ講座、厚田と浜益編、「シンポジウム厚田と浜益の地域住民と社会教育の課題」というテーマの話し合いにできれば社会教育委員の方も参加して頂ければというのが一つで、それについては、社会教育主事講習という位置づけだけで

はなく、社会教育委員独自に今まで、厚田と浜益について学ぶという事をしてきました。皆さんに石狩市社会教育委員の会議ということで「社会教育委員と共に取り組みワークショップ」という小冊子と、「パネルディスカッション『石狩市、厚田と地域づくりと社会教育の課題』』という、そういう二つのパンフレットがあると思うのですが、パネルディスカッションについては、去年社会教育主事講習の一環でやったものに、石狩市の社会教育委員の会が協力するという事で、厚田の地域づくりと社会教育の課題というテーマで、パネルディスカッションをやった報告書です。今年は、1日目に厚田のことだけではなく、浜益地区のことも含めて、パネルディスカッションなり、シンポジウムのようなことをやりたいということが一つです。

ここまでが、社会教育主事講習に協力するという事で考えていることです。もうひとつ社会教育委員の会議の独自の取り組みとしては、去年11月に厚田で『厚田を石狩市の宝に―「石狩市民が知っておきたい〇〇のこと」』という、〇〇の部分は本来数字を入れる予定でしたが、数字だと入れにくいので〇〇とそのままにしていますが、去年から重点としては、社会教育委員の会議としては、厚田や浜益の地域課題や社会教育の課題と一緒に学ぶ場所、それも旧石狩市民の方たちを厚田まで連れて行って、厚田の人たちと議論したり、浜益の人たちと議論したりするという取り組みをやってきて、今年は、できればレジュメの1日目の、「今年中に浜益で昨年厚田で11月に開催したのと同様にワークショップ『浜益を石狩市の宝に―石狩市民が知っておきたい〇〇のこと』』仮称ですがこういう事を、去年の反省を総括に踏まえ、やってはどうかと提案します。

次の会議が10月になるので、それから話し合ったのでは間に合わないの、一応こういうことを基本に進めたいと思います、と言うことと、今日役割を決めるわけには行かないので、基本的な方向性について議論して頂いて、もし、基本方向が認められれば、それぞれどういう形でお手伝いいただけるかということも、副委員長と事務局と私で相談しながら、皆さんにお願いしながら進めて行きたいと思うのですが、それについて、今日始めて参加された方も居られて、戸惑いもあるかと思いますが、ご意見を伺いたいと思います。こういう方向を基本に進めて行きたいと思うんですけど、いかがでしょうか？ご意見を伺えればと思います。

準備も無く急に提案をして、皆さんのご意見を聞くのも恐縮なんですけど、社会教育委員として集まる機会も少ないのでお願いということですが、当面は8月4日の午後に厚田で考えていますが、浜益の人厚田に来てもらうようになるとは思いますが、厚田と浜益の地域の課題と社会教育の課題、きちっと整理しなければ、なかなか難しい問題もありますが。厚田に道の駅が作られる、厚田に色んな支援が集中していく中で、これから浜益のことはどうしてくれるんだ、とか、学校の統廃合と結びつく地域の課題とかありますが、その中で市民の方が、きちんと納得が行くような、共通の理解が得られるような話し合いを、どういう形で持つのかということも含めて、現地の方にヒアリングしながら準備をするということがあって、自分が中心になって、いろいろ現地の方にお聞きしながら皆さんからのお手伝いをお願いしたいと思っています。もしできれば、可能な方は、私と一緒に厚田や浜益に行って頂いて、現地の方にお話を聞くのに同席していただいて聴くとかそういうところを含めて協力して頂ければ。もちろん皆さんのご都合の如何ですから、必ずではありませんが、お手伝いが可能な方に手伝って頂くことでいいのですが、いかがでしょうか。

大黒委員：去年、厚田でやりましたよね。本当にすごく反応がありまして、厚田の宝を探そうということで、パネルディスカッションをやって、本当の厚田で無い人たちが来て真剣に考えてもらったというものは、珍しく感動していました。あのようなことが刺激になると思います。私は今後も、浜益の方でも今年は出てくるなど期待しておりました。

木村委員長：大黒委員が積極的に仰って下さって、そういう風に感想を持ってくださる方もいらっしゃる一方で、地域のことについて地元の人たちは何度もディスカッションをやっていて、もう一步踏み出すような学びができたなら良いという感想もいただいている。この後、学んだことを基にして実際の地域づくりにつなげていくのかっていう話し合いにしないと、いつまで社会教育委員は勉強ばかりしているのかと言われるので、その点も踏まえてどういう形で議論したら良いのかっていうことも、去年の結果を踏まえて、この次の社会教育主事講習の一環としてやるものと、秋に予定するものについて中身を工夫しなければならないと思っています。

東次長：確認なんですけど、去年の厚田の夏の講座は3人のパネリストの方がいて、前もってその方たちと社会教育委員が何回かお会いして、そのうえで本番を迎えたという経緯だったかと思うんですね。今回の8月4日の厚田・浜益編というイメージが、同じような形なのかどうなのかを確認させていただきたいのです。

木村委員長：基本的には、去年と同じ方も含めて何人かにお願いしてお話して頂く。去年は浜益についてやっていないので、今年は浜益の方を加えなければいけない。ただ、時間の制限もあるので、そんなにたくさんの方にお話いただくことはできないんですけど、皆さんから、厚田のことをもっと知るためには、こんな人もいますとか、浜益にはこういう方に話を聞いたほうが良いというような意見を言っていただいた上で、その方と直接お会いしてお願いをすると同時に、どんな話をして頂くかということについて意見を聞きながら進めていきたいと思ひますし、意見を頂くということを6月・7月にやらなきゃいけない。希望があれば皆さんも私も行って話を聴いて頂くとか、大橋さんと一緒に行って頂くとか、あるいは積極的な希望があれば、聴いて頂ければありがたい。さらに、関わることはできなくても当日8月4日の午後のシンポジウムにはぜひ参加しますというようなことでもいいと思ひます。交通の手段とかは後ほど、教育大と石狩市と相談しなくてははいけませんけど、そういうことも含めて具体的にしたいと思ひます。

東次長：6月から7月にかけて、誰に会うかを含めて、これから整理してということですね。

木村委員長：去年、厚田は協議会の佐藤さんとか、農業の河合さんとか、漁業の中井さんとか、地域おこし協力隊の沼倉さんとか、そういう方たちが候補になる。結構何回もお願いをされているんですね。それ以外の方、新しい地域で頑張っている、輝いている人に出てきたいいただくことも考えられるので、そういう意見を聞きながら進めていきたいと考えています。

もし、何か特別にご意見が無ければ、基本的にはそういう方向で準備をして頂いて、一応こういう方向で進めますので、適宜皆さんにご連絡を差し上げながら進めたいと思ひますが、よろし

いでしょうか。

各委員：わかりました。

木村委員長：はい。ではそういう方向で、進めさせて頂きますので、よろしくお願ひいたします。私のほうは北海道教育大学の責任者の今先生のお手伝いをしながら、やりたいと思っています。

あと、船木委員は藤女子大でしたね。船木委員にやって頂くことも考えておりますが、場合によっては先生以外でその日の都合だとか、他の先生の方が適任だからなどご紹介いただければと思います。あるいは、場合によっては学生さんがいろいろなことをやっていけば、学生さんたちに来ていただいて、来ていただく方には、教育大学の方から薄謝が用意されると思います。

船木委員：学生の方が面白そうですね。

木村委員長：面白いかもしれませんね。そういうことも含めて、さっきのマナビーバだとか地域の学習支援だとかで、学生が引っ張りだこになっていますので、学生にどういう形で参画してもらってというのも地域の課題だと思います。

船木委員：SATがありますが、SATを取り上げても社会教育主事とは少し違いますので、また別の機会にということですよ。

木村委員長：はい。よろしいですか。ではそういう形で進めさせて頂きますので、よろしくお願ひします。それでは、平成28年度社会教育委員の取り組みについては以上で終わることにして、また詳細については決まっていないこともありますし、教育大学の都合もありますので、準備が進み次第お知らせしながら進めていきたいと思っています。ありがとうございました。

それでは、次第の7 その他 に入りたいと思います。

須藤主査：最初に、「俳句王国がゆく」ということについてご案内します。

(以降説明)

ぜひ社会教育委員さんにもこの番組に参加をしてもらいたいと思い、ご案内差し上げます。それで、ご都合を見て頂きまして、口頭でも、参加申込書に記入いただいても結構ですので、奮ってご参加をお願ひいたします。

木村委員長：参加したら俳句を作らなくてはいけないんですか。

東次長：参加する方にはがき大の入場券をお渡しすることにしておりますが、氏名と住所と、プラス俳句とはなっておりますが、ぜひ、ということですので無理にということではありません。できればお願ひしたいということです。当日いただいた句の中から優秀の4人を選んで、その中から1句が最優秀、他はその他ということで、当日に壇上に上がっていただくようになります。

もし今、参加可能な方がおられましたら、人数にカウントいたしますので、手を上げていただければ幸いです。

木村委員長：去年の社会教育主事講習では、受講者には石狩の3日間の間で一句詠むということになって、懇親会で披露するというやり方をしておりました。

東次長：本当は募集に当たっては、往復はがきでの応募となりますが、委員さんは別な形で入場券をお渡しできますので、後ほどFAXでもいただければ、と思います。

木村委員長：それでは、「俳句王国がゆく」については、皆さん奮ってご参加ください。それでは、他に意見は。

栗谷主査：「フォーラム石狩」についてご説明いたします。

(以降説明)

先ほど協議のありました、家庭・学校・地域一体となった取り組みを、管内の中で共有しながら解決に向けての方策、ヒントを得る機会ですので、是非ご参加いただいて有意義な時間を過ごして頂ければと考えております。私からは以上です。

木村委員長：私は日本社会教育学会で韓国の大学と連携する研究会をその時期北大で開催するので、副実行委員長でもありますし、全国や韓国からいっぱい人が来るので、その時間帯によって参加できるかわかりませんが、都合がつけば参加したいと思います。

他に何かありますか。よろしいですか。

時間が参りましたので、本日議題は全てご審議頂いたということになります。全体を通して何かありますでしょうか。よろしいですか。本日は長時間ありがとうございました。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成28年7月6日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村純